

指宿港海岸事業概要



指宿港海岸の場所

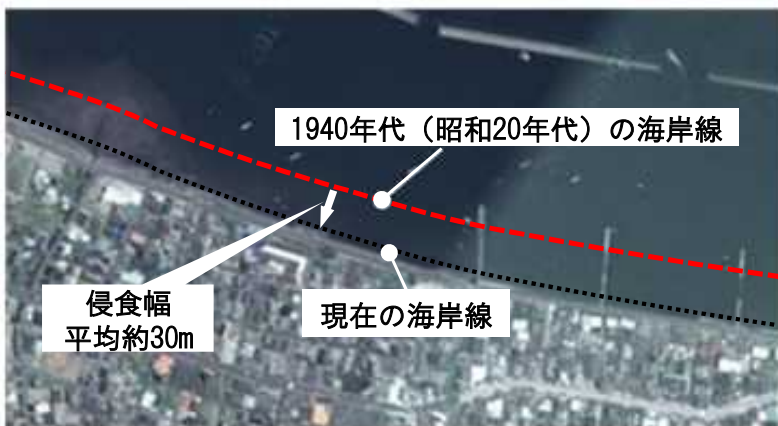
- ◆ 指宿港海岸は、薩摩半島南東部に位置し、鹿兒島湾（錦江湾）湾口に面する延長約1.8km（太平次公園～大山崎）の湾曲した砂浜海岸である。



砂浜の侵食による越波被害の発生

- ◆ 指宿港海岸は、元々、消波機能を持つ砂浜があったが、1951年のルーヌ台風により砂浜が大量に流出。
- ◆ その後の砂浜は、河川等からの砂の供給源がないことや高波等により侵食が進行。
- ◆ 砂浜の侵食により消波機能が失われ、台風等の高波時の越波による背後の住宅や観光・宿泊施設等への浸水被害が度々発生。2012年の台風16号による高波では背後住宅の3階まで到達する越波が発生。
- ◆ 加えて、護岸は築年数が60年以上経過しており、度重なる台風の来襲等により老朽化した護岸の隙間から土砂が吸い出されることで背後道路に陥没が発生し、地元住民や観光客の通行に支障が出ている。

【海岸線の変化】

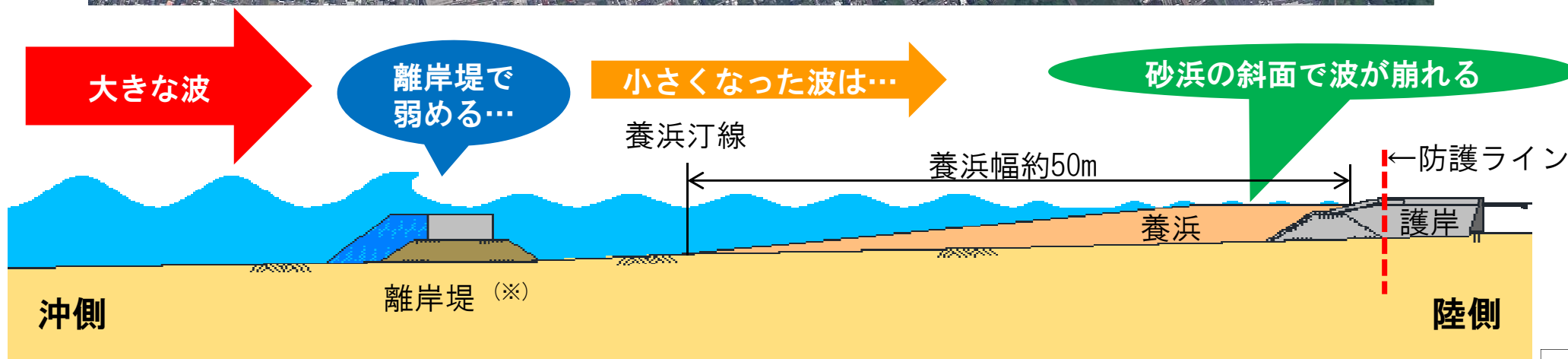
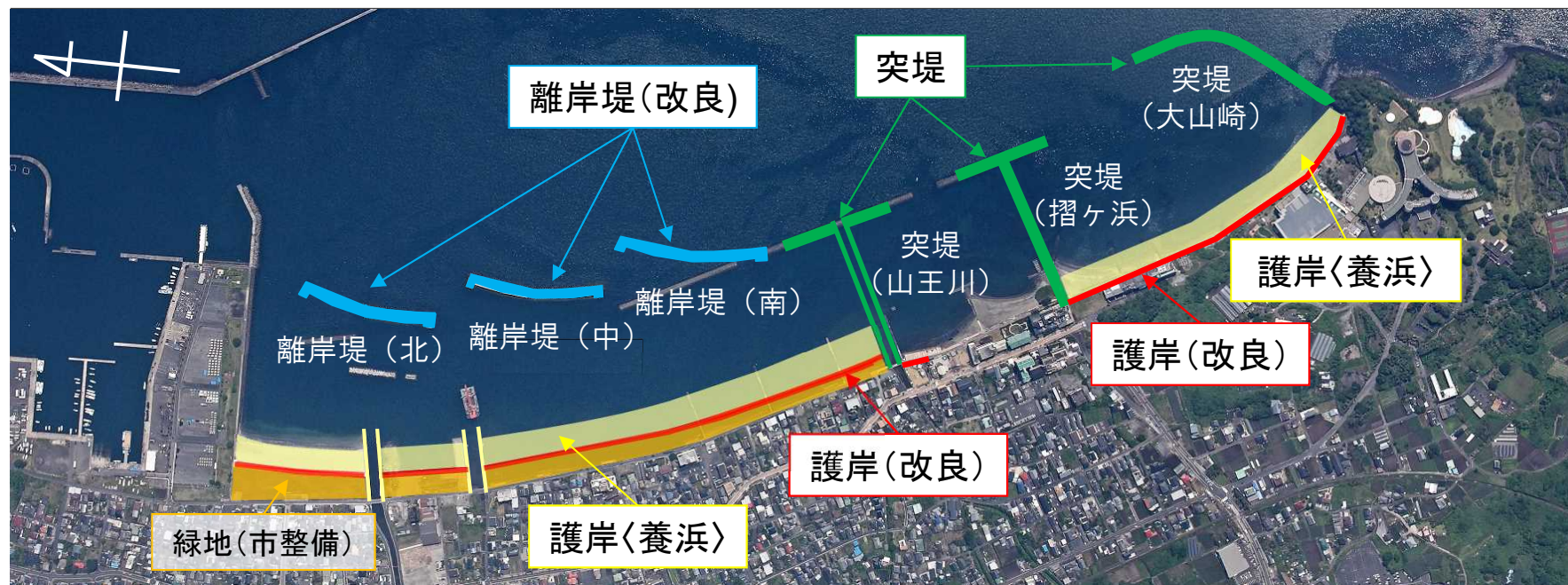


【背後道路の利用状況と陥没被害状況】



【事業内容】

- 整備施設：護岸（改良） 1,550m 、 突堤 3基
- 離岸堤（改良） 3基 、 護岸<養浜> 1,550m



(※) 場所によっては突堤が離岸堤に代わる役割を果たす



事業着手前



完成イメージ図



令和4年5月14日



令和5年5月21日



令和6年1月1日